

第5回木曽川上流自然再生検討会 議事要旨

日 時：平成23年7月1日（金）14:00～16:00

場 所：グランパレホテル 4階 檜の間

1. 開会

2. 挨拶（木曽川上流河川事務所所長、座長）

3. 議事

（1）規約の変更

- ・ 規約の変更箇所について、確認・了解された。

（2）自然再生事業等のモニタリングについて

＜委員の皆様の主な意見＞

○河川の連続性の確保（揖斐川）

- ・ ヨシノボリ等は、吸盤を持つ種でもあり、必ずしも遡上能力が弱いわけではない。岡島、山口頭首工でこういうものの遡上がしていないと言う点は、確認方法、あるいは、表現として少し問題がある。
- ・ カマキリが広い範囲にいるということ、また、かつて揖斐川ではボウズハゼ、根尾川ではオオヨシノボリが確認されたことは、減ってきている魚でもあり評価できる。
- ・ 大田川の事例から、遡上は日変動が結構大きく、（多数）捕獲できる日とできない日がある。捕れないから上っていないと解釈すべきでない。調査を長期にわたって行えば、データの見方が定まってくる。

○水際湿地等の再生

- ・ トンボ池について、トンボには、水辺だけではなく、下草があって休息場所や逃げ場所を与える樹林が必要である。密生していた竹林を伐開したことによって、トンボが住みやすくなったと考えられる。
- ・ 揖斐川河道掘削について、ヤナギには高木になる種もあれば、低木にしかない種もある。その辺りがわかるよう整理して表現した方がよい
- ・ 水際湿地の再生のモニタリングでは、平水位以下に掘削した箇所に湿生植物が生えてくると魚の産卵場になると考えられるので目視でいいので確認してほしい。

○砂礫河原の再生（長良川）

- ・ シナダレスズメガヤについて、供給源や増減の傾向がわかるような調査をしてほしい。
- ・ 河道掘削とか抜開とか、あるいは、除草とかにおいて、貴重植物に遭遇する機会是否定できないので、これまでどおり十分注意して実施してほしい。

○緩流域環境の再生（杭瀬川）

- ・ 杭瀬川では、湧水地点という部分が重要な環境要件であり、湧水の観点や冠水の状況

をモニタリングしてほしい。

- ・ 貝が生息している場所の物理環境について、湧水量の推定、水温状態など、できるだけ把握することが必要であると思われる。
- ・ アブラボテとヤリタナゴが同所的に生息する場所は減少しており、それが確認された場所は重要な所ととらえておいてほしい。

○その他

- ・ コアジサシの繁殖状況については、もっと詳細な調査が必要である。平成 24 年度の繁殖期には、その状況がわかる調査を実施してほしい。
- ・ 地域活動での外来種の駆除については、駆除の目的をしっかりと参加者に伝えて活動をしてほしい。
- ・ 自然再生をやっている中で、砂礫河原の意味が必ずしも部外者に明確に伝わっていない面がある。また、どこで水上バイクをやっているのか、どこは慎むべきかなど、規制したり協力を求めたりする方法はないのかと思う。

4. 閉会